

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2013.6.25 No. 169 連絡先 FAX 042-555-1911



米の強襲揚陸訓練「ドーン・ブリッツ」に 陸海空自衛隊が初の参加

島嶼(とうしょ)防衛作戦の向上を目的に陸海空自衛隊は、米西海岸カリフォルニア州のキャンプ・ペンドルトン海兵隊基地で始まった米軍の統合実動訓練「ドーン・ブリッツ(夜明けの電撃戦)」(6月10日～26日)に初めて本格参加しました。

自衛隊は約1,000人が参加します。同訓練には海自からヘリ搭載護衛艦「ひゅうが」、イージス艦「あたご」、輸送艦「しもきた」が初参加し、西方普通科連隊(相浦)を主力とする陸自部隊は、ボートやCH47JA輸送ヘリなどを利用して揚陸訓練を実施するという事です。

訓練を主催する米海軍・海兵隊は「地球規模の危機対応」のためと位置付け、海外への“殴り込み”能力強化の目的を明確にしています。

米軍HPには、「今回の訓練には、5000人を超える海兵隊員、海軍兵並びにカナダ、日本、ニュージーランドの連合軍に加え、7カ国の軍隊のオブザーバーも参加します。

この演習では、大規模な強襲上陸、海上拠点軍事作戦、地雷戦任務、実弾射撃、海上事前集積部隊、戦場空間形成作戦、部隊間訓練、特殊訓練、軍事作戦上の計画、歩兵集中訓練、船上操縦者技能、医療訓練、急襲、オスプレイの海上自衛艦への離着艦などが計画されています。

6月24日(現地時間)にはキャンプ・ペンドルトン史上最大規模の多国間上陸作戦も計画されています。」と記載。



上、6月13日、演習「ドーン・ブリッツ」で、戦闘強襲偵察用舟艇(ラバー製ボート)に乗りカリフォルニアの荒波に立ち向かう自衛隊員。

下は、6月14日、ヘリ搭載護衛艦「ひゅうが」に着陸するオスプレイ。(写真:米軍HPより)

最近よく飛行訓練している 横田基地所属機 C-12J ヒューロン



最近、C-12J ヒューロンの飛行訓練が目につきます。米軍の小冊子「航空機空中衝突防止のために」にも、セスナ機の訓練空域はありますがC-12Jはありませんでした。(No.166の説明を訂正)

C-12J ヒューロン3機は、米軍横田基地に2007年7月1日から前任のC-21と交代し要人輸送の任務に就いています。



横田基地撤去の座り込み 今後の日程

7月21日(日)	1時30分～3時30分(第52回)
8月18日(日)	同上
9月15日(日)	同上
10月20日(日)	同上
11月17日(日)	同上
12月15日(日)	同上

場所 福生市
フレンドシップパーク
(JR 青梅線 牛浜駅下車)

オスプレイ配備撤回、新基地建設やめてこそ「慰霊の日」

(No. 169 の裏面)

沖縄戦の犠牲者を追悼するのが6月23日の「慰霊の日」です。

糸満市摩文仁の平和祈念公園にある「平和の礎(いしじ)」には、沖縄戦などで犠牲になった24万人余りの名前が刻まれています。

「平和の礎」には、この1年で新たに分かった62人(沖縄出身者46人、県外出身者16人)の犠牲者の名前が刻まれました。

基地のない沖縄を、願わずにいられません。(写真は平和の礎)



横田基地周辺でも墜落事故はあった《砂川村 B29爆撃機 墜落事故》

朝鮮戦争(1950年6月25日-1953年7月27日休戦)のあった時代、米軍横田基地はB29爆撃機の出撃拠点でした。1951年11月18日午後6時30分頃、米軍横田基地を爆弾を積んだ状態で離陸したB29爆撃機が、東京都北多摩郡砂川村西砂川(現・立川市砂川町)に墜落しました。

墜落と同時に積載されていた爆弾が爆発し、機体は粉々に粉砕すると共に、燃料のガソリンにも引火し、激しく炎上。この時の爆風の威力は凄まじく、墜落地点の近くの家屋36棟が全壊したほか、墜落地点より半径1000メートル範囲内にあった都営住宅100棟も全焼しました。

墜落后、すぐに警察(立川地区署)、福生、拝島、昭和、瑞穂など各町村の消防団などが現場へ急行し、消火活動を行うと共に負傷者の救護にあたりましたが、砂川村の住民5名、B29爆撃機の乗員米兵2名が死亡しました。消防士も10名が死亡しました。



この事故の爆発は強烈で、墜落現場から2キロ以上離れた青梅線拝島駅でも窓ガラス数10枚が割れるなどの被害が出たそうです。

B29は、アメリカのボーイングが設計・製造した大型爆撃機です。愛称は「超空の要塞(スーパーフォートレス)」。B29の日本での空襲で200以上の都市が被災し、死者は33万人、被災は内地全戸数の約2割にあたる約223万戸といわれています。B29は第二次世界大戦末期から朝鮮戦争期の主力戦略爆撃機です。(写真: B29空襲の様子)

《埼玉県金子村 B29爆撃機 墜落事故》50kg爆弾が次々と爆発した

埼玉県金子村 B29 墜落事故は、1952年2月7日 - 埼玉県入間郡金子村(現・入間市)に B-29 爆撃機が爆弾を積んだまま墜落し激しく爆発炎上、村民4名と乗員13名全員が死亡した事故です。

2月7日の夜、吹雪の吹き荒れる横田基地を、50kg爆弾を満載した B29 爆撃機が北へ向けて離陸。離陸後の午後10時50分頃、B29は横田基地より北へ約8キロメートルほど離れた埼玉県入間郡金子村寺竹の農家が点在する場所に墜落。墜落と同時に機体は激しく炎上し、搭載されていた爆弾が次々と誘爆し爆発しました。誘発された爆発により、消火活動と救護活動のために現場に駆けつけた住民1名が、爆風に直撃され吹き飛ばされて即死しました。

現場に駆けつけた住民、警官、消防団などは、さらに爆弾の炸裂が続くことを察知し、救助活動も消火活動も全く手をつけられなくなってしまいました。消火活動が出来なかったことで火災はそのまま燃え広がり、結局火災は午前3時過ぎ頃自然鎮火しました。家屋の被害は、民家7世帯11棟が全焼、民家約50戸が爆風で半壊でした。墜落現場は八高線の金子駅より北東へ約1キロの場所です。この日は数年ぶりの大雪で千代田区でも積雪は11.3センチを記録していました。

墜落時に青白い火花を散らしながら飛行機が落ちてきたとの目撃情報がありましたが、これは事故現場近くの山の上に張り巡らされていた東京電力の送電線を、事故機が引っ掛けて切断したためです。そのため東京都立川市をはじめとする広範囲で停電事故が発生しました。